

使い続ける重要文化財

東京駅の保存・復原・活用を考える



復原後の東京駅

歴史的建築物は都市に風格を与え、人々の生活を豊かに彩ります。かつては展示物のように保護されるだけであった重要文化財も、いまや“生きた建築”として、現代の日常生活に積極的に活用されるようになりました。そのなかでも東京駅丸の内駅舎は、駅やホテル・美術館として日々100万人近い人々が利用する“使い続ける重要文化財”の代表です。

1914年の竣工以来、第2次大戦による被災など多くの試練を経ながらも、2012年10月には多くの人々の努力によって見事に創建時の姿に復原されました。10年を超える大事業となった東京駅丸の内駅舎保存復原プロジェクトの全容を振り返り、現代の日本における歴史的建築物の保存活用について考えます。

講師 田原 幸夫（たはら ゆきお）

京都工芸繊維大学大学院 特任教授。1949年長野県生まれ、京都大学卒業。日本設計事務所（現・日本設計）入社後、1983年にベルギー政府のフェローとして渡欧。ルーヴァン・カトリック大学大学院・保存修復専門課程にてディプロマ取得、ユネスコ世界遺産「グラン・ベギナーシュ」の保存活用設計に携わる。丸の内プロジェクト室長、東京駅丸の内駅舎保存復原設計監理室・設計監理総括を経て、2014年より現職。



開催概要

- 日時：2017年3月2日（木）19:00～20:45（18:30開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて
①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。